

3) 久慈川の鳥類

久慈川は水環境に依存する鳥から山の鳥まで一括して楽しむことができる、非常にコンパクトな川といえる。河口部の湾内の水域では、春季及び冬季にはカモメ類を中心に水域を利用する種が多い。また下流より辰ノ口までの草地や農耕地では、冬季には陸域を生息の場に行っているホオジロ、カシラダカ、スズメなどが多く生息している。また、辰ノ口堰付近の森林地帯では、夏季にサシバ、冬季にノスリが生息している。支川の山田川のワンドでは、冬季にはオオハクチョウの飛来も確認されており、本川の粟原地区は、オオハクチョウやコハクチョウの重要な自然の餌の採食地となっている。鳥類の生息地としてみると、久慈川の河川敷は休息の場を提供している。

また、低水路にはコアジサシ、チドリ類の繁殖地が、中流部の高水敷の樹林にはサギ類の集団営巣地であるコロニーが存在する。なかでもイカルチドリは、支流の里川から久慈川本流沿いに生息・繁殖地が集中しており、久慈川流域が県内有数の繁殖地となっている。サギ類の大規模なコロニーがある里川合流地点下流では、砂礫地でイカルチドリが繁殖し、かつてはコアジサシも繁殖しており、鳥類の繁殖地として重要な拠点である。

①鳥類と河川の間わり

久慈川で見られる鳥は、年間を通して河川に依存している鳥から時々訪れる程度の鳥まで、種類により河川とのかかわり方は多様である。これら鳥類は、大きく以下の4つのグループに分けることができる。

表 6-7 鳥類と久慈川の間わり

区分	代表的な鳥類
□主に河川内の水辺で生活する鳥 河川の水辺で主に採食し、ほぼ河川内のみで生活を完結している鳥である。河原で繁殖する鳥と冬に訪れ河原で採食する鳥がこれに当たる。河川を主な生活の舞台としているので、河川の鳥と呼ぶにふさわしい。	コアジサシ、カワセミ、ヤマセミ、セグロセキレイ、イソシギ、カワガラスなど
□河川内だけでなく河川外でも生活する鳥 河川内と河川外のどちらにも生活している鳥である。河川内にも生活できる環境があるので見られるというだけで、河川環境に特に依存しているわけではない。	ヒバリ、キジ、モズ、ホオジロ、キジバト、ハクセキレイ、サギ類など
□採食や休息、ねぐらをとるために河川を訪れる鳥 このグループの鳥は、生活の本拠地は河川外にある。1年のある時期に限って採食や休息、ねぐらをとるためだけに河川を訪れる。ノスリ、トビなどの猛禽類などもこのタイプで、河川に隣接した山地で繁殖し、採食のために河川を訪れる。	ムクドリ、スズメ、カワラヒワなど
□渡りの時期、一時的に立ち寄る鳥 春と秋の渡りや移動の途中、一時的に河川を利用する鳥である。	ノビタキ、ショウドウツバメ、アマツバメ、ノゴマなど

②河原で繁殖する鳥の営巣場所

コチドリ、イカルチドリ、コアジサシは、増水によってできた草の生えていない砂礫地に巣をつくる。特に、体が大きく警戒心の強いコアジサシは、より安全な中州などの砂礫地にしか営巣しない。砂礫地に草が生えてくると、イソシギやヒバリが草の根元に巣をつくり、繁殖を始める。また、流木の下などに、セグロセキレイが巣をつくる。

さらに遷移が進み、草が密に生え、背の低い一面の草原になると、イソシギとヒバリは繁殖できなくなり、代わってセッカ、ホオジロが巣をつくり繁殖を始める。ヨシやオギといった背の高い草原になると、オオヨシキリ、ヨシゴイが巣をつくる。

草原の中にノイバラ、ヤナギ類等の藪や低木が入り込むと、モズがそれらの中に巣をつくる。木が高くなるにつれ、キジバト、オナガが巣をかける。木が大きくなり、林を形成すると、ササゴイ、ハシボソガラスが巣をつくる。さらに、木が大きくなると、ハシブトガラス、トビが営巣を始める。

以上のように、河川で繁殖する鳥は、種類ごとにそれぞれ異なった環境で繁殖している。そのため、河川環境の移り変わりとともに繁殖する鳥の種類も入れ替わってゆくことになる。

河川環境の最大の特徴は、時折見舞われる増水によって、途中まで進んだ遷移が最初の段階に戻される点である。大きな増水がなく環境が安定していると、砂礫地に草が生え、コチドリ、イカルチドリ、コアジサシが繁殖できなくなる。河川を数 km といったスケールで見ると、ある場所で砂礫地に草が生え、コチドリ、イカルチドリ、コアジサシが繁殖できなくなっても、次の増水によって別の場所で新たに裸地の砂礫地が形成されるので、これらの鳥は、新たな営巣環境を求めて移動することで繁殖を継続することができる。

河川に生息する鳥は、巣をつくる場所だけでなく、食べる餌の種類、大きさ、餌の捕らえ方、餌を捕る場所も種類ごとに少しずつ異なる。さらに、種類により日中の休息場所、隠れ場所、夜間のねぐら場所も異なる。これらの違いは、長い進化の過程で、お互いの競争を少なくするようにできあがってきたと考えられる。

③崖に穴を掘って繁殖する鳥

川の流れて削られた崖に穴を掘って繁殖する鳥がいる。水辺の枝や杭などに止まり、水に飛び込み魚を捕らえるヤマセミとカワセミである。どちらも長く大きくちばしを持ち、魚が主食である。両者は、体の大きさが異なり、ヤマセミはハトぐらいなのに対し、カワセミはスズメほどの大きさしかない。そのため、捕らえる魚の大きさは、体の大きさに応じて異なっている。ヤマセミは、本来は河川の上流域にすむ鳥であるが、久慈川では最近中流域でも普通に見られるようになった。それに対し、カワセミは上流域には見られなく、中流域と下流域に生息する。



④中州や砂礫州で集団繁殖するコアジサシ

コアジサシの巣づくりに適した場所は、中州や砂礫州の一部に限られ、その場所に多くのつがいが集まって巣をつくる。粟原床固周辺や里川合流地区などでは、過去に集団繁殖が確認されている。

コロニーにカラスやサギなどが接近すると、集団で雛や卵を防衛する。また、洪水によって流されてしまうこともあり、河川内で繁殖する鳥類は常に危険にさらされている。さらに、最近はRV車（多目的レジャー車）が河川内を走り回り、雛や卵がつぶされるなどの被害が懸念される。

⑤集団で繁殖するサギ類

久慈川ではサギ科の鳥は、コサギ、チュウサギ、ダイサギ、アマサギ、アオサギ、ゴイサギ、ササゴイ、ヨシゴイの8種が生息する。サギ科の鳥は、長い首、長いくちばし、長い足といった共通の特徴を持つ。水辺にすむことが多く、主に魚、カエル、甲殻類などの水生の動物を餌としている。

里川合流地区には、久慈川流域最大のサギ類（ゴイサギ、アマサギ等）のコロニーが形成されている。

⑥水辺で餌をついばむ鳥

河川の水辺では、水生昆虫が羽化し植物から水に落ちた昆虫が流れつくなどして、昆虫を食性とする鳥類にとっての採餌場として機能する。久慈川では、チドリ科のコチドリ、イカルチドリ、シギ科のイソシギ、セキレイ科のセグロセキレイ、ハクセキレイ、キセキレイである。これらの鳥は、水辺に沿って歩き回り、虫をついばんで食べる。

表 6-8 久慈川水系で確認された鳥類

No	科 名	種 名	渡り区分	観 察 可 能 時 期									
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1	カイツブリ科	カイツブリ	留鳥										
2		ミミカイツブリ	冬鳥										
3		カンムリカイツブリ	冬鳥										
4	ウ科	カウウ	留鳥										
5		ウミウ	冬鳥										
6	サギ科	ヨシコイ	夏鳥										
7		コイサギ	留鳥										
8		ササコイ	冬鳥										
9		アマサギ	夏鳥										
10		ダイサギ	留鳥										
11		チュウサギ	冬鳥										
12		コサギ	留鳥										
13		アオサギ	留鳥										
14		オオハクチョウ	冬鳥										
15		コハクチョウ	冬鳥										
16	カモ科	マガモ	冬鳥										
17		アヒル	留鳥										
18		カルガモ	留鳥										
19		コガモ	冬鳥										
20		ヒドリガモ	冬鳥										
21		ホシハジロ	冬鳥										
22		キンクロハジロ	冬鳥										
23		スズガモ	冬鳥										
24		シメハラガモ	冬鳥										
25		ホオジロガモ	冬鳥										
26	タカ科	ミサコ	留鳥										
27		トビ	留鳥										
28		オオタカ	留鳥										
29		ハイタカ	留鳥										
30		ノスリ	留鳥										
31		サシバ	夏鳥										
32	ハヤブサ科	チュウヒ	留鳥										
33		ハヤブサ	留鳥										
34	キジ科	チョウゲンボウ	冬鳥										
35		コスズ	留鳥										
36		コユケイ	留鳥										
37	クイナ科	キジ	留鳥										
38		ハン	留鳥										
39	チドリ科	コチドリ	夏鳥										
40		イカルチドリ	留鳥										
41		シロチドリ	留鳥										
42		メダイチドリ	留鳥										
43	シギ科	キョウジョシギ	旅鳥										
44		ハマシギ	冬鳥										
45		クサシギ	冬鳥										
46		キアシシギ	旅鳥										
47		イソシギ	留鳥										
48		チュウシャクシギ	旅鳥										
49	カモメ科	タシギ	冬鳥										
50		オオジシギ	夏鳥										
51		ユリカモメ	冬鳥										
52		セグロカモメ	冬鳥										
53		オオセグロカモメ	冬鳥										
54		カモメ	冬鳥										
55	ハト科	ウミネコ	留鳥										
56		ミツコビカモメ	冬鳥										
57		コアジサシ	夏鳥										
58		カワラバト (ドバト)	留鳥										
59	カッコウ科	キジバト	留鳥										
60		カッコウ	留鳥										
61	フクロウ科	フクロウ	留鳥										
62		アマツバメ	夏鳥										
63	カワセミ科	ヤマセミ	留鳥										
64		カワセミ	留鳥										
65	キツキ科	アカゲラ	留鳥										
66		コゲラ	留鳥										
67	ヒバリ科	ヒバリ	留鳥										
68		ショウドウツバメ	夏鳥										
69	ツバメ科	ツバメ	夏鳥										
70		コシアカツバメ	夏鳥										
71		イラツバメ	夏鳥										
72		セキセイ	留鳥										
73	セキレイ科	ハクセキレイ	留鳥										
74		セグロセキレイ	留鳥										
75	セキレイ科	ヒンズイ	留鳥										
76		タヒバリ	冬鳥										
77	ヒヨドリ科	ヒヨドリ	留鳥										
78		モズ	留鳥										
79	ミソサザ科	ミソサザ	留鳥										
80		ジョウビタキ	冬鳥										
81	ツグミ科	イソヒヨドリ	留鳥										
82		トラツグミ	留鳥										
83		アカハラ	冬鳥										
84		シロハラ	冬鳥										
85	ウグイス科	ツグミ	冬鳥										
86		ヤブサメ	冬鳥										
87		ウグイス	留鳥										
88		シマセンニュウ	旅鳥										
89		オオヨシキリ	夏鳥										
90		セツカ	留鳥										
91	ヒタキ科	キビタキ	夏鳥										
92		オオルリ	夏鳥										
93	シジュウカラ科	シジュウカラ	留鳥										
94		メジロ	留鳥										
95	ホオジロ科	ホオジロ	留鳥										
96		カシラダカ	冬鳥										
97		アオジ	冬鳥										
98		オオジュリン	冬鳥										
99	アトリ科	アトリ	冬鳥										
100		カワラヒワ	留鳥										
101		マヒワ	冬鳥										
102		ベニマシコ	冬鳥										
103	ハタオリドリ科	シメ	冬鳥										
104		スズメ	留鳥										
105		ムクドリ	留鳥										
106		カケス	留鳥										
107	カラス科	オナガ	留鳥										
108		ハシボソガラス	留鳥										
109		ハシブトガラス	留鳥										

久慈川河川敷鳥類及び昆虫類調査

久慈川・那珂川 環境調査

平成 12 年度 久慈川河川水辺の国勢調査業務 鳥類調査

平成 13 年度 久慈川河川水辺の国勢調査業務 鳥類

をもとに作成

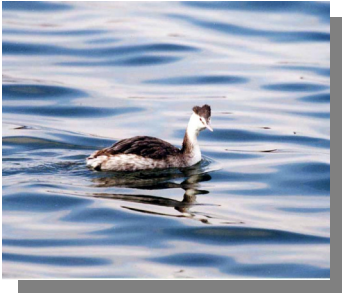
⑦保全上重要な鳥類

直轄管理区間を対象として実施される平成 12、13 年度河川水辺の国勢調査（鳥類調査）で確認された保全上重要な鳥類は、以下に示すとおりである。

表 6-9 河川水辺の国勢調査（鳥類調査）で確認された保全上重要な鳥類

科名	種名	選定根拠
カイツブリ科	カンムリカイツブリ	「茨城県における絶滅のおそれのある野生生物＜動物編＞(茨城県版レッドデータブック)」 希少種
サギ科	ヨシゴイ	「茨城県における絶滅のおそれのある野生生物＜動物編＞(茨城県版レッドデータブック)」 希少種
	ササゴイ	「茨城県における絶滅のおそれのある野生生物＜動物編＞(茨城県版レッドデータブック)」 危急種
	チュウサギ	「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物ーレッドデータブックー＜鳥類＞」 準絶滅危惧種
カモ科	シノリガモ	「茨城県における絶滅のおそれのある野生生物＜動物編＞(茨城県版レッドデータブック)」 希少種
タカ科	ミサゴ	「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物ーレッドデータブックー＜鳥類＞」 準絶滅危惧種 「茨城県における絶滅のおそれのある野生生物＜動物編＞(茨城県版レッドデータブック)」 危急種
	オオタカ	「絶滅のおそれのある野生動植物の保存に関する法律」 指定種 「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物ーレッドデータブックー＜鳥類＞」 絶滅危惧Ⅱ類 「茨城県における絶滅のおそれのある野生生物＜動物編＞(茨城県版レッドデータブック)」 危急種
	ハイタカ	「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物ーレッドデータブックー＜鳥類＞」 準絶滅危惧種 「茨城県における絶滅のおそれのある野生生物＜動物編＞(茨城県版レッドデータブック)」 希少種
	チュウヒ	「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物ーレッドデータブックー＜鳥類＞」 絶滅危惧Ⅱ類 「茨城県における絶滅のおそれのある野生生物＜動物編＞(茨城県版レッドデータブック)」 危急種
ハヤブサ科	ハヤブサ	「絶滅のおそれのある野生動植物の保存に関する法律」 指定種 「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物ーレッドデータブックー＜鳥類＞」 絶滅危惧Ⅱ類 「茨城県における絶滅のおそれのある野生生物＜動物編＞(茨城県版レッドデータブック)」 危急種
チドリ科	イカルチドリ	「茨城県における絶滅のおそれのある野生生物＜動物編＞(茨城県版レッドデータブック)」 希少種
	シロチドリ	「茨城県における絶滅のおそれのある野生生物＜動物編＞(茨城県版レッドデータブック)」 希少種
シギ科	オオジシギ	「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物ーレッドデータブックー＜鳥類＞」 準絶滅危惧種 「茨城県における絶滅のおそれのある野生生物＜動物編＞(茨城県版レッドデータブック)」 希少種
カモメ科	コアジサシ	「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物ーレッドデータブックー＜鳥類＞」 絶滅危惧Ⅱ類 「茨城県における絶滅のおそれのある野生生物＜動物編＞(茨城県版レッドデータブック)」 希少種
カッコウ科	カッコウ	「茨城県における絶滅のおそれのある野生生物＜動物編＞(茨城県版レッドデータブック)」 希少種
カワセミ科	ヤマセミ	「茨城県における絶滅のおそれのある野生生物＜動物編＞(茨城県版レッドデータブック)」 希少種
ツバメ科	コシアカツバメ	「茨城県における絶滅のおそれのある野生生物＜動物編＞(茨城県版レッドデータブック)」 希少種
ツグミ科	イソヒヨドリ	「茨城県における絶滅のおそれのある野生生物＜動物編＞(茨城県版レッドデータブック)」 希少種
ヒタキ科	オオルリ	「茨城県における絶滅のおそれのある野生生物＜動物編＞(茨城県版レッドデータブック)」 希少種

- 注) ・「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物ーレッドデータブックー」は平成 14 年 8 月に公表された鳥類編を使用。
・茨城県版レッドデータブックは平成 12 年 3 月に刊行された動物編を使用。



カイツブリ科
カヌムリカイツブリ
写真提供:
(株)建設環境研究所

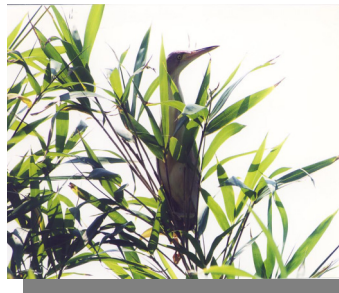
環境省 RDB

茨城県 RDB

希少種

冬鳥として飛来し、まれに大きな湖沼で越冬する。越冬期には内湾の海上にも現れる。

巣は水草を材料に浮き巣として、あるいは浅瀬に作られ、普通4卵が産みこまれる。



サギ科
ヨシゴイ
写真提供:
(株)建設環境研究所

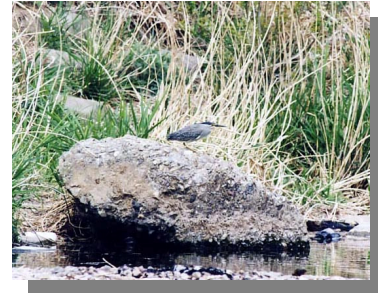
環境省 RDB

茨城県 RDB

希少種

池や沼、川岸、休耕田などで、ヨシ、マコモ、ガマ類など背の高い単子葉植物が茂った湿地にすむ。

多くはヨシ原の中など、水生植物の生えている水辺に好んで営巣するが、池の中の島などに、数つがいが集まって営巣することもある。



サギ科
ササゴイ
写真提供:
(株)建設環境研究所

環境省 RDB

茨城県 RDB

危急種

主に低地や平地の河川の水辺に生息するが、池沼、水田、時には海岸にも出現することがある。

水辺近くのヤナギ林、マツ林、竹林、市街地の**大木などの樹上に、1~10数つがい**で単独または集団で営巣する。



サギ科
チュウサギ
写真提供:
(株)建設環境研究所

環境省 RDB

茨城県 RDB

準絶滅危惧種

水田や湿地で生活し、川の流れの中や干潟に出ることは少ない。
他のサギ類とともに、平地のヤナギ林や竹林などに集団で繁殖コロニーをつくる。



カモ科
シノリガモ
写真提供:国土環境(株)

環境省 RDB

茨城県 RDB

希少種

繁殖期には内陸の溪流にすむが、冬期はおもに本州中部以北の岩の多い海岸の海上にみられる。

日本で繁殖が確認されているのは、いずれも標高 600m~800m の山地の溪流である。巣は溪流近くの木の葉に覆われた地上や岩の隙間の地上に作られる。



タカ科
ミサゴ
写真提供:
(株)建設環境研究所

環境省 RDB

茨城県 RDB

準絶滅危惧種

危急種

海岸、大きな川、湖などに生息する。

人気のない海岸の岩の上や岩棚、水辺に近い大きな木の上に枯れ枝を積んで皿型の巣をつくる。



タカ科
オオタカ

写真提供:
(株)建設環境研究所

種の保存法 掲載種
環境省 RDB

絶滅危惧Ⅱ類
茨城県 RDB
危急種

亜高山から平地の林に生息するが、しばしば獲物を求めて農耕地や水辺の開けた場所へも出てくる。

林内の大木の枝上に枯れ枝を積んで皿型の巣をつくる。



タカ科
ハイタカ

写真提供:国土環境(株)

環境省 RDB

茨城県 RDB

低山帯の林にすみ、秋冬には平地の農耕地や市街地の上空にもみられる。

高木の枝上に営巣し、巣は毎年つくることが多い。枯枝を主材として皿型の巣をつくる。



タカ科
チュウヒ

写真提供:上原 励氏

環境省 RDB

茨城県 RDB

草地、ヨシ原、農耕地、牧草地などを生活圏とし、背丈の高い草やヨシの中、時には林の中に身を隠して休息していることが多い。

広いヨシ原などの地上に小枝やヨシの茎を積んで皿型の巣をつくる。



写真提供:
(株)建設環境研究所

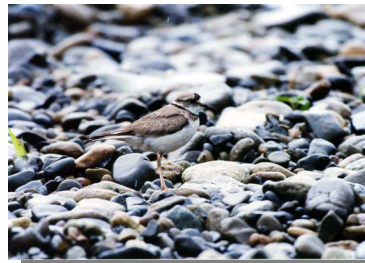
タカ科
ハヤブサ

種の保存法 掲載種
環境省 RDB

絶滅危惧Ⅱ類
茨城県 RDB
危急種

広い空間で狩りをするため、海岸や海岸に近い山の断崖や急斜面、広い川原、原野、広い農耕地などを生活域とする。

海岸や海岸に近い山地の断崖の岩棚に営巣する。



写真提供:
(株)建設環境研究所

チドリ科
イカルチドリ

環境省 RDB

茨城県 RDB

川の中流より上の砂礫の川原や中州に生息し、冬期には水田などにも現れる。

主として砂利の多い川原で繁殖し、特に中流域の氾濫原の礫の多いところを好む。砂や土の多い埋立地では繁殖しない。



写真提供:
(株)建設環境研究所

チドリ科
シロチドリ

環境省 RDB

茨城県 RDB

川の下流や海岸に生息する。繁殖期には、ややコロニー状に集まって営巣し、営巣環境によってその場所に適した巣作りをする。主に開けた砂地や砂礫地の地面に作られる。



シギ科
オオジシギ

写真提供:
(株)建設環境研究所

環境省 RDB

準絶滅危惧種

茨城県 RDB

希少種

北海道では草原、牧場、湿原などで普通に見られるが、本州では高原に局地的に生息するのみ。繁殖地の南限は富士山麓。

巣は地上に作られる。



カモメ科
コアジサシ

写真提供:
(株)建設環境研究所

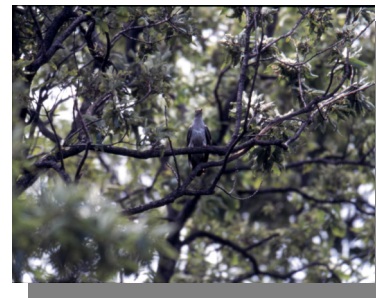
環境省 RDB

絶滅危惧Ⅱ類

茨城県 RDB

希少種

繁殖期には広い川や海岸に生息し、コロニーを作って営巣する。巣は砂礫地の地面を浅く掘り凹めた簡単なもの。



カクコウ科
カクコウ

写真提供: (財) 埼玉県
生態系保護協会

環境省 RDB

—

茨城県 RDB

希少種

平地から山地のヨシ原、木のまばらにある草原、農耕地、カラマツ林、明るい林などに夏鳥として渡来し、枯枝、梢、電線などにとまって鳴く。

自分では巣をつくらず、他の鳥の巣に卵を1個ずつ産みこむ。育て親としては数十種の鳥が記録されている。



カワセミ科
ヤマセミ

写真提供:
(株)建設環境研究所

環境省 RDB

—

茨城県 RDB

希少種

山地の溪流や湖沼に生息し、単独またはつがいで見られる。

繁殖期には、川や湖の岸辺やその近くの土の崖に、くちばしを使って巣穴を掘る。



ツバメ科
コシアカツバメ

写真提供: パシフィック
コンサルタンツ(株)

環境省 RDB

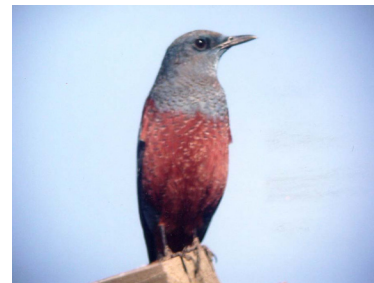
—

茨城県 RDB

希少種

人工建造物に営巣するが、木造の建物よりもモルタルやコンクリート造りの大きな建物を好む傾向がある。

巣作りの土台にツバメの巣を使うことがあるが、一方ではしばしばスズメに巣を奪われる。



ツグミ科
イソヒヨドリ

写真提供: 多田恒雄氏

環境省 RDB

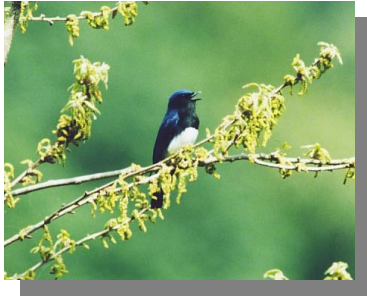
—

茨城県 RDB

希少種

本来の生活場所は崖や岩場のある海岸であるが、海沿いの人口構造物の多い場所にも生息する。

繁殖は、岩の隙間などに枯草や細根で椀型の巣を作って行われる。



ヒタキ科
オオルリ

写真提供：
(株)建設環境研究所

環境省 RDB

—

茨城県 RDB

希少種

主に谷沿いのよく茂った林に
生息する。

切り立った崖や石垣が途中で
段になった所などに、蘚類を主
な材料にして椀型の巣を作る。